

2. 芝草地

利用目的	草種	造成方法	栽培上の要点	備考
放牧利用	芝自生種及び市販苗	挿苗法	<ol style="list-style-type: none"> 1. マット状に掘取ってきた苗を丁寧にほぐし、10～15cmに切りそろえ調整する。 2. 唐鍬を打ち込み少し手前に引き起こし、2～3本の苗を1株とし、頭部を3～4cmのぞかせて差し込み強く踏みつける。 3. 植え付け間隔は1m程度、植え付け時期は4～9月の乾ばつ期を除くといつでも可能。10a当たり2～3㎡のマット状シバ苗が必要。 	<p>*シバ草地の維持管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 雑かん木は繁茂を防止するため適宜刈払いを行う。適当な放牧が行われていれば雑草はほとんど繁茂しない。 2. シバ草地は無肥料で管理すると、最も安定的に利用できる。草量が不足するときは、10a当たり5kg/年程度の窒素肥料を追肥すると収量が約2倍に増加する。 3. 追肥により雑草が侵入・増加するので極端な多肥をさける。
	芝自生種及び市販苗	ポット苗法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 園芸用の紙ポット（直径3cm×深さ7cm）をプラスチック箱（40cm×60cm）にセットしハウス又は露地で育苗する。 2. ふるいを通した土に、N、P、K各10%の化成肥料を重量比で5%程度加えたものを育苗床にし、10cm程度に切断したなえを差し込み灌水して根元を丁寧に押さえる。その後は、表面が乾かない程度に灌水する。 3. 2～3カ月でポット内に細根が広がる。植え付けは、蜂の巣状の紙ポットをほぐし、ポットごと植え付ける。 4. 植え付けは、1㎡当たり1～2株程度の間隔で植え付ける。 5. 根元に少量の緩効性肥料を施すことによって生育を促進させることができる。 	
	市販苗	撒きシバ法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市販のシバ苗をフォーレージカッタなどで3～4cm断片に細断し、それを整地後の圃場に散布する。 2. 造成時には10a当たり12束（1束9枚）～49束必要である。苗を多く散布すると造成期間は短縮される 3. 造成時には、苗の発根及び定着を促進するために過燐酸石灰を10a当たり30kg程度施用する。窒素肥料は雑草との競合を増大させるので施用しない。 4. シバ苗の散布は、3月～4月又は9月に行うとよい。5月～8月は土壤水分が多い時期に限定することが必要。10月以降は冬害が発生するので避ける。 5. 定着率を高めるにはロータリ耕起等の地表処理が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造成手順 基肥 耕起整地（ロータリ耕） 苗散布（人力） 〔覆土・省略しても可〕 鎮圧（ローラ） ・造成初期の管理 シバの幼植物は初期生育が遅くシバの被度が50%を越えるまでに半年以上を要する為雑草の競合を軽減することが重要（放牧や選択性除草剤の散布）追肥は行わないか控えめにする（N、P、Kでそれぞれ3～4kg/10a程度）
	市販種子	種子造成法	<ol style="list-style-type: none"> 1. シバ種子は硬実であるため水分吸収が悪く、不十分な水分環境では発芽しにくい 2. 耕起造成では10a当たり2kg、不耕起造成では5割増の3kgを播種する。 3. 造成時には施肥は一切行わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造成手順 耕起造成 = 耕起・整地（ロータリ耕） 播種（ブロードキャスト） 鎮圧（ローラ） 不耕起造成 = 地表の有機物層の除去（重放牧、火入れ等） 播種（人力） 鎮圧（重放牧）
市販苗	張りシバ法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市販シバ苗をそのままの形状又は短冊状に切断して移植する。 2. 植え付け間隔は1m程度、植え付け時期は4～9月の乾ばつ期を除くといつでも可能。 3. 苗の必要量は、挿苗法より著しく増加する。 		